

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-332716
 (43)Date of publication of application : 02.12.1994

(51)Int.CI. G06F 9/445
 G06F 9/06
 G06F 13/00
 G06F 15/16

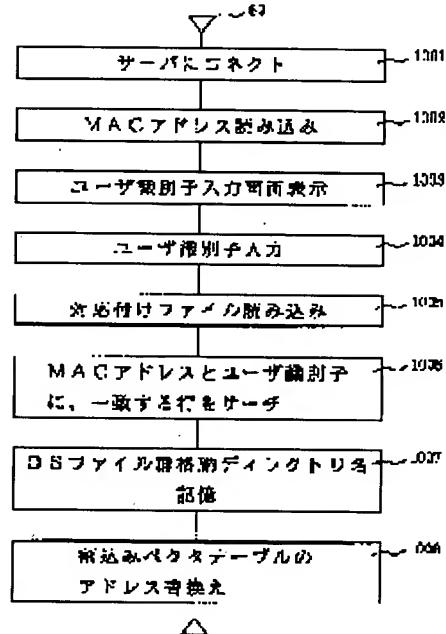
(21)Application number : 05-123794 (71)Applicant : HITACHI LTD
 (22)Date of filing : 26.05.1993 (72)Inventor : TAKAHASHI YUMIKO
 ITO HIROMICHI
 NAKANE KEIICHI

(54) REMOTE BOOT SYSTEM

(57)Abstract:

PURPOSE: To improve an operation efficiency by operating a remote boot in the desired OS or environment setting of each user even when plural users use one client.

CONSTITUTION: Plural OS file groups whose kinds are different on the hard disk of a server are selected by using corresponding identifiers, and read in the main storage of the client. For example, the OS files are stored in server directories different for each kind, and a corresponding file in which the correspondence of the directories to the user identifiers is described is prepared. An LAN board BIOS initialization program is equipped with a user identifier inputting means 1004, and means 1006 and 1007 which obtain and store the name of the directory in which the OS file corresponding to the user identifier is stored from the corresponding file, and the OS files are read from the directory.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-332716

(43)公開日 平成6年(1994)12月2日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 9/445				
9/06	4 1 0 D	9367-5B		
13/00	3 5 7 Z	7368-5B		
15/16	4 2 0 S	9190-5L		
		9367-5B	G 0 6 F 9/ 06 4 2 0 J	審査請求 未請求 請求項の数5 O L (全 10 頁)

(21)出願番号	特願平5-123794	(71)出願人	000005108 株式会社日立製作所 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地
(22)出願日	平成5年(1993)5月26日	(72)発明者	高橋 由美子 神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地株式会社日立製作所マイクロエレクトロニクス機器開発研究所内
		(72)発明者	伊藤 浩道 神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地株式会社日立製作所マイクロエレクトロニクス機器開発研究所内
		(74)代理人	弁理士 小川 勝男
			最終頁に続く

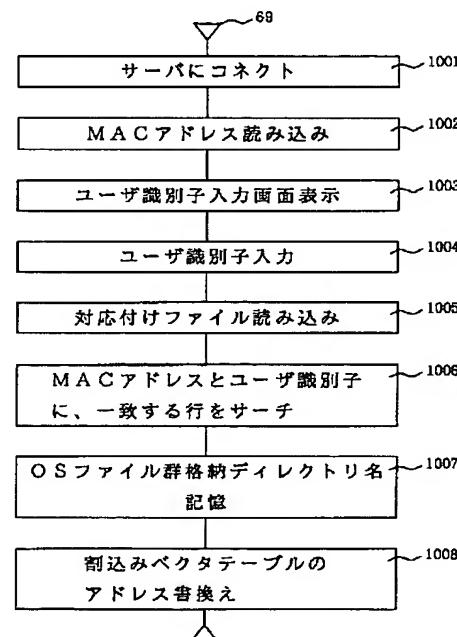
(54)【発明の名称】 リモートブートシステム

(57)【要約】 (修正有)

【構成】 サーバのハードディスク上の種類の異なる複数のOSファイル群を対応付けした識別子を用いて選択して、クライアントの主記憶に読み込む。例えば、OSファイルを、その種類毎に異なるサーバディレクトリに格納するとともに、ディレクトリとユーザ識別子との対応を記述した対応付けファイルを用意した。LANボードBIOS初期化プログラムに、ユーザ識別子入力手段1004と、対応付けファイルからユーザ識別子に対応したOSファイルを格納したディレクトリ名を取得し記憶する手段1006、1007を設け、ディレクトリからOSファイルを読み出す。

【効果】 1台のクライアントを複数のユーザが使用した場合でも、各ユーザの所望のOSあるいは環境設定でのリモートブートができる、作業効率が向上する。

図 1



【特許請求の範囲】

【請求項1】クライアントと呼ばれる情報処理装置とサーバと呼ばれる情報処理装置をネットワークで接続したシステムで、前記クライアントが前記サーバのハードディスク上に格納したオペレーティングシステムファイル群を、ネットワーク経由でクライアントの主記憶に読み込むリモートブートにおいて、前記サーバのハードディスク上の種類の異なる複数のオペレーティングシステムファイル群を識別子を用いて選択後、該クライアントの主記憶に読み込むことを特徴とするリモートブートシステム。

【請求項2】請求項1記載のリモートブートシステムであって、サーバのハードディスク上には、前記複数のオペレーティングシステムファイル群と前記識別子を対応付ける対応付けファイルを用意し、前記識別子を取得する識別子取得手段、前記識別子と前記対応付けファイルを用いて所望のリモートブート用オペレーティングシステムファイル群を読み出す手段とを持つことを特徴とするリモートブートシステム。

【請求項3】請求項1又は請求項2記載のリモートブートシステムであって、オペレーティングシステムファイル群を選択するための識別子が、各ユーザを識別するユーザ識別子であることを特徴とするリモートブートシステム。

【請求項4】請求項1又は請求項2記載のリモートブートシステムであって、オペレーティングシステムファイル群を選択するための識別子が、OSの種類を示すOS識別子であることを特徴とするリモートブートシステム。

【請求項5】請求項1又は請求項2記載のリモートブートシステムであって、オペレーティングシステムファイル群を選択するための識別子が、環境ファイルの種類を示す環境識別子であることを特徴とするリモートブートシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】パーソナルコンピュータ等の情報処理装置、及びこれを複数接続した情報処理ネットワークに係り、特に、情報処理装置のオペレーティングシステムを他の情報処理装置からロードするためのプログラムに関する。

【0002】

【従来の技術】近年コンピュータのダウンサイジング化、ネットワークオペレーティングシステムの発達などの影響を受けて、パーソナルコンピュータ（以下PCと略す）等の情報処理装置をLAN（Local Area Network）等のネットワークで接続したシステムが増加している。これらのシステムは、クライアントと呼ばれる情報処理装置と、サーバと呼ばれる情報処理装置から構成されることが多い。クライアントは、ネ

ットワークを介しサーバのハードディスク（以下HDと略す）上のファイルをアクセスしたり、サーバに接続されたプリンタを利用することができる。このようなシステムを、クライアントサーバシステムという。

【0003】ところで、PC等の情報処理装置においては、そのオペレーティングシステム（以下OSと略す）を該情報処理装置が具備するフロッピーディスク（以下FDと略す）、あるいはHD等の不揮発性記憶装置に格納し、該情報処理装置の立ち上げ時に、該OSを該情報処理装置の主記憶上に読み出し、OSを立ち上げようになっている。このOS立ち上げ動作は、OSのブートと呼ばれている。

【0004】上述のクライアントサーバシステムにおいては、サーバのHD上にOSのプログラムファイルを格納しておき、クライアントのシステム立ち上げ時に、サーバのHDから該OSプログラムファイルをネットワーク経由でクライアントの主記憶上に読み出し、OSをブートするといったことも行われている。このようなOSのブート方法は、リモートブートと呼ばれ、各クライアントのHDを不要に出来、またアクセス速度が低速なFDを使用しなくても良く、さらにOSプログラムファイルの一元管理が出来るといった利点がある。

【0005】上記リモートブートにおいて、各クライアントの機種が異なる場合には、機種ごとのOSプログラムファイルをサーバHD上に用意しておき、クライアントの機種に合ったOSプログラムファイルをリモートブート実行時に読み出す必要がある。

【0006】この場合、サーバのHD上に置かれた複数のOSファイルと、クライアント機種との対応付けは、従来該サーバ及び該クライアントに装着するLANボードのMAC（Medium Access Control）アドレスを用いて行われていた。ここで、MACアドレスとはLANにおける通信データの授受を行う際に、各情報処理装置のLANボードのアドレスとして使われるものであり、該ボード一枚一枚に固有の値が割り当てられている。

【0007】上記対応付けを以下具体的に説明する。

【0008】図5に、リモートブート実行時のシステム構成を示す。クライアント2、クライアント3、クライアント4、クライアント5は、ネットワーク6を経由し、サーバ1のHD7上のファイル8を共通にアクセスする。クライアント2及びクライアント3はXタイプの機種であり、クライアント4及びクライアント5はYタイプの機種である。また、クライアント2、3、4、5のMACアドレスはそれぞれ5A003B77H（Hは16進数を示す）、4B931211H、2C984A67H、75682732Hである。

【0009】図8に、前記各クライアントがリモートブートを実行する際に必要な、サーバHD7上のファイル構成を示す。IPL（Initial Program

Loader) 21, 31はOSをロードするためのプログラムである。DOS, SYS22, 32とINOUT, SYS23, 33はOSのカーネルプログラムである。このうち、DOS, SYS22, 32はファイル管理、メモリ管理、プロセス管理等のOSの基本機能を持ち、INOUT, SYS23, 33は周辺装置を制御する。COM, COM24, 34はコマンドインタプリタであり、入力したコマンドを解析し、指定されたコマンドプログラムを実行する。CONF, SYS25, 35はユーザが固有の機能をOSに追加するため、デバイスドライバ等を指定する設定ファイルである。AUT O, BAT26, 36はOSの起動時に自動的に実行するプログラム等の設定を行う自動実行バッチファイルである。なお、上述のファイルを総称してOSファイル群と呼ぶ。ディレクトリX TYPE 81の下に格納されたOSファイル群は、前記Xタイプの機種用であり、ディレクトリY TYPE 82の下に格納されたOSファイル群は、前記Yタイプの機種用である。MATCH, SYS83は、前記MACアドレスと前記OSファイル群との対応付けを行うためのファイルである。

【0010】図9は、テキストファイルである前記MATCH, SYS83の内容である。1行目、2行目は、クライアント2、クライアント3のMACアドレスである5A003B77H, 4B931211Hと前記ディレクトリX TYPE 81が対応付けられていることを示し、3行目、4行目は、クライアント4、クライアント5のMACアドレスである2C984A67H, 75682732Hと前記ディレクトリY TYPE 82が対応づけられていることを示している。

【0011】このように、クライアントは、該クライアントのLANボードのMACアドレスと、前記対応付けファイルMATCH, SYS83を用いて、該クライアント機種用のOSファイル群が格納されたディレクトリを判別し、該ディレクトリの下のOSファイル群を用いてリモートブートを行なう。これにより、クライアント機種に合ったOSファイル群を選択出来、複数のクライアント機種が混在した場合にも正しくリモートブートできる。

【0012】リモートブートについては、米国特許No. 240, 955に開示されている。

【0013】

【発明が解決しようとする課題】ところで、OS、かな漢字変換プログラム、グラフィカルユーザインタフェースプログラム等の種類や立ち上げ後の初期状態は、ユーザ毎の作業内容や好みによって異なる。また、同一ユーザでも行う作業内容によって、使用したいOS、かな漢字変換プログラム、グラフィカルユーザインタフェースプログラム等の種類や立ち上げ後の初期状態が異なる場合がある。

【0014】しかし、従来のリモートブート機能では、

同一クライアントを複数のユーザが使用した場合、ユーザ毎にOSの種類やOSの立ち上げ後の初期状態を決める環境設定内容を選択できないという問題があった。

【0015】また、従来のリモートブート機能では、OS立ち上げ時にユーザがOSの種類やOS立ち上げ後の初期状態を決める環境設定内容を選択できないという問題があった。

【0016】したがって、本発明の目的は、ユーザ毎に使用するクライアントのOSの種類、及び該OSの立ち上げ時の環境設定内容を選択可能なりモートブートシステムを提供することにある。

【0017】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するためには、本発明は、サーバとクライアントから成る情報処理システムにおいて、ユーザ識別子に対応するOSファイル群を記述した対応付けファイルと、ユーザ識別子取得手段、前記ユーザ識別子と前記対応付けファイルを用いて、サーバHD上に置かれた複数のOSファイル群の中から所望のOSファイル群を読み出すOSファイル読み出し手段を設けた。

【0018】

【作用】ユーザ識別子取得手段は、画面表示等でユーザ識別子の入力を促し、ユーザがキーボード等から入力するユーザ識別子を取得する。OSファイル読みだし手段は、該ユーザ識別子と、ユーザ識別子とOSファイル群との対応付けを記述した対応付けファイルとを用いて、サーバHD上に置かれた複数のOSファイル群の中から所望のOSファイル群を選択し、クライアント上に読み出す。これによって、予め対応付けファイルでユーザ毎に指定したOSファイル群を使用することができ、ユーザ毎にOSの種類、及び該OSの立ち上げ時の環境設定を選択できる。

【0019】

【実施例】以下、本発明の一実施例を図を用いて説明する。本実施例におけるシステム構成は、従来例において図5で示したものと同一である。

【0020】サーバ1のHD7には、クライアント2、クライアント3、クライアント4、クライアント5の立ち上げに必要な、機種及びユーザ毎のOSファイル群と、前記クライアント2、クライアント3、クライアント4、クライアント5の機種識別子及びユーザ識別子と前記OSファイル群との対応付けを行なう対応付けファイルが格納されている。

【0021】図4は、本発明の一実施例におけるクライアント2の構成例である。41はCPU、42は主記憶、43はROMである。ROM43には、情報処理装置の制御を行うBIOSプログラム等が格納される。44はキーボード45からのキー入力を制御するキーボードコントローラ、46はHD47への読み書きを制御するHDコントローラ、48はFDドライブ49に装着さ

れるFDへの読み書きを制御するFDコントローラ、50はディスプレイ51への表示データを制御するための表示コントローラ、55はCPU41、主記憶42、ROM43と各コントローラ間の信号の伝送を行うバスである。LANボード9はLANコントローラ52、LANボードBIOS ROM53、MACアドレスROM54から構成される。LANボードBIOS ROM53にはリモートブートを制御するプログラムが格納される。

【0022】図6は、前記クライアント2のメモリマップの一例を示す図である。システムプログラム61、FD BIOSプログラム62、表示BIOSプログラム63は、前記ROM43に格納されている。システムプログラム61内には、図6(b)に示すように、ハードウェアのチェックを行う初期診断プログラム66、FD D等の組み込み周辺装置用ROM BIOSプログラム67、記憶装置からIPLを読み出し実行するブートプログラム68がある。前記LANボード9のBIOS ROM53内に格納されるLANボードBIOS ROMプログラム64は、本実施例ではC000:0000H番地から配置されている。該LANボードBIOS ROMプログラム64の先頭アドレス部分には、図6(c)に示すように、特定のコード例えば55H, AAHと、前記コードに続いて初期化プログラム69が書き込まれる約束になっている。また、アドレスC000:1000H番地からは、割り込みによりサービスされるFDへの入出力を、サーバHD7への入出力に置き換えるためのFD BIOSエミュレータプログラム70が格納されている。また、0000:0000H番地から0000:03FFH番地の部分には割込みベクタテーブル65が置かれている。

【0023】図11に、対応付けファイルMATCH.SYS105の内容を示す。MATCH.SYS105は、機種識別子であるMACアドレスとユーザ識別子を合わせた識別子と、前記ユーザ毎に用意したOSファイル群とを対応させるためのファイルである。本実施例では、ユーザ識別子としてSUZUKI、SATOを使用する。

【0024】例えば、1行目はクライアント2のMACアドレス5A003B77Hとユーザ識別子SUZUKIからOSファイル群が格納されたディレクトリとしてXSUZUKIを対応させ、2行目はクライアント2のMACアドレス5A003B77Hとユーザ識別子SATOからOSファイル群が格納されたディレクトリとしてXSATOを対応させることを示している。以下3行目から8行目まで同様の対応付けを示している。

【0025】図10に、図5のシステム構成において各クライアントがリモートブートを実行する際に必要な、サーバHD7上のファイル構成を示す。XSUZUKI101、YSUZUKI102、XSATO103、Y

SATO104は、クライアント機種及びユーザ毎に用意したディレクトリであり、各ディレクトリにOSファイル群が格納されている。以下でOSファイル群を構成する各ファイルについて説明するが、前記各ファイルの詳細な機能説明については、従来の技術で記した同一名ファイルの説明と同様であるのでここでは省略する。

【0026】IPL71、DOS.SYS72、INO UT.SYS73、COM.COM74は、Xタイプの機種に固有のOSファイルである。CONF.SYS75、AUTO.BAT76は、Xタイプの機種でSUZUKIがリモートブートを行う場合の固有の環境設定がなされているファイルである。同様に、CONF.SYS75'、AUTO.BAT76'は、Xタイプの機種でSATOがリモートブートを行う場合の固有の環境設定がなされているファイルである。IPL81、DOS.SYS82、INO UT.SYS83、COM.COM84は、Yタイプの機種に固有のOSファイルである。上述のOSファイルと名前は同じであるが、内容は異なっている。CONF.SYS85、AUTO.BAT86は、Yタイプの機種でSUZUKIがリモートブートを行う場合の固有の環境設定がなされているファイルである。同様に、CONF.SYS85'、AUTO.BAT86'は、Yタイプの機種でSATOがリモートブートを行う場合の固有の環境設定がなされているファイルである。

【0027】次に、リモートブート時の動作の説明をする前に、クライアント2がFDからブートを行った場合の動作について、図2のフローチャートを用いて以下で説明する。

【0028】ユーザにより電源投入あるいはリセット指示がかかると、上記システムプログラム61が実行される。システムプログラム61内の初期診断プログラム66は、ステップ201においてメモリチェック等の初期診断を行う。次に、前記周辺装置用ROM BIOSプログラム67に制御が移りステップ202からステップ206までの処理を実行する。ステップ202ではFD D49等の組み込み周辺機器、及びそのコントローラを初期化する。この時、FDD49等に対する入出力処理をサービスするためのROMプログラムのエントリ番地を、割り込みベクタとして主記憶42に設定する。FD D49等に対する入出力処理を行う際には、ソフトウェア割り込みをプログラムから発行することにより、前記割り込みベクタに指定された処理プログラムを呼び出すことが出来る。ステップ203では、情報処理装置のオプションスロット等に装着された拡張ボードのBIOS ROMの有無を調査する。本実施例では、拡張ボードBIOS ROMプログラムの先頭アドレスに位置するデータを55H, AAHと約束しているので、55H, AAHのデータが連続して存在するアドレスを調査する。該調査の結果、拡張ボードBIOSが検出されると、ス

ステップ204において該拡張ボードBIOSの初期化プログラムが実行される。後述するリモートブート時にはLANボードBIOSが検出された後、該初期化プログラム69が実行される。次に、ステップ206において全アドレスを調査したかどうかによって拡張ボードBIOS調査の終了判定を行い、終了するまでステップ203～205を繰り返す。拡張ボードBIOSの調査が終了した場合は制御が上記ブートプログラム68に移り、ステップ206において、IPLをFDD49から読みだし実行する。次に、前記IPLがステップ207においてOSのカーネルプログラムであるDOS、SYSとINOUT、SYSを読みだし実行する。具体的には、INOUT、SYSが周辺装置の初期化（周辺装置の接続状態のチェック、ドライバーチンの初期化）を行った後、OSの本体であるDOS、SYSの初期化ルーチンを実行し、作業領域の確保、バッファ領域の確保等を行う。次に、ステップ208においてCONF、SYSを参照し、指定された周辺装置等のドライバプログラムをシステムへ組み込んだ後、ステップ209でコマンドインターフェースであるCOM、COMを読み出し実行する。COM、COMはステップ210において、自動実行バッチファイルであるAUTO、BATを読み出し実行する。

【0029】図6で示したように、リモートブートを制御するLANボードBIOSプログラム64の先頭アドレスに格納されているデータは、55H、AAHである。したがって、上記ステップ203で該LANボードBIOSが検出される。該LANボードBIOSの初期化プログラム69がステップ204で実行される。

【0030】次に、図1のフローチャートを用い、前記初期化プログラム69の動作を説明する。

【0031】まず、ステップ1001でLANコントローラ5を介しサーバ1とのコネクションを確立する。次に、ステップ1002でLANボード9上のMACアドレスROM54にアクセスし、MACアドレスの読み込みを行う。次に、ステップ1003でディスプレイ51にユーザ識別子入力画面を表示する。次に、ステップ1004でキーボード45にユーザ識別子が入力されると、ステップ1005でサーバHD7上の対応付けファイルMATCH、SYS105を読み込む。ステップ1006で前記MACアドレスと前記ユーザ識別子に一致する行を該対応付けファイルMATCH、SYS105の中からサーチすることによって、該MACアドレスと該ユーザ識別子に対応するOSファイル群が格納されたディレクトリ名を得て、ステップ1007で該ディレクトリ名を記憶する。

【0032】例えば、MACアドレスが5A003B7H、上記ユーザ識別子がSUZUKIであった場合は、図11で示した対応付けファイルMATCH、SYS105の1行目からXSUZUKIのディレクトリを

記憶するのである。次に、ステップ1008で上記FD49に対する入出力処理をサービスするための割り込みベクタをFD BIOSエミュレータプログラム70をコールするためのアドレスに書き換え、LANボードBIOS初期化プログラム69を終了する。

【0033】図7は、図6で示した割り込みベクタテーブル65を拡大したメモリマップである。図7において、割り込みベクタテーブル65内の0000:0064H番地は上述のFDD49に対する入出力処理サービスをコールするためのエントリ番地が格納されている領域である。上述のように図2のステップ202では、図7(a)に示すように前記エントリ番地をFD BIOSプログラム62が格納されているF000:0000H番地に設定している。上記LANボードBIOSプログラム64の初期化プログラム69は、上述のように図1のステップ1008において前記エントリ番地を図7(b)に記すように、FD BIOSエミュレータプログラム70が格納されているC000:0000番地に書き換える。

【0034】次に、上記FD BIOSエミュレータプログラム70の動作を、図3のフローチャートを用いて以下説明する。FD BIOSエミュレータプログラム70は、ステップ301において、上述のステップ1007で記憶済のOSファイル群格納ディレクトリ名を読み出す。次に、FD BIOSエミュレータプログラム70を呼び出したプログラムからパラメータとして渡されるファイル名に、前記OSファイル群格納ディレクトリ名を付加する。次に、ステップ303で、前記付加を行なったファイル名を用いてサーバHD1からファイルを読み出す。

【0035】例えば、上述のようにMACアドレスが5A003B77Hでユーザ識別子がSUZUKIであった場合は、XSUZUKIというディレクトリ名が記憶されているので、"IPL"というファイル名をパラメータとして読み出し要求があった場合には、"XSUZUKI/IPL"というファイル名でサーバHD1から読み出しを行なうのである。

【0036】上述の割込みベクタ書き換えと、前記FD BIOSエミュレータプログラム70によって、図2のステップ206～210においてFDから読み出していたOSファイルは、サーバHD1上のMACアドレスとユーザ識別子の組合せ毎に用意したディレクトリの下に格納されたOSファイル群の中から読み出される。

【0037】以上の動作によって、ユーザ毎に異なるIPL、OSのカーネルプログラム、コマンドインターフェース、及び自動実行バッチファイル、周辺装置制御ファイル等を使用してOSを立ち上げることができる。これにより、1台の情報処理装置を複数のユーザで交代に使う場合にも、各ユーザに最適な環境を提供出来るという効果がある。

【0038】前記実施例では、MACアドレスとユーザ識別子でOSファイル群を識別し、OSをブートする例を示したが、ROM43に書かれた機種コード等を用いてクライアントの機種を識別することも可能である。このようにクライアントの機種が特定出来れば、MACアドレス以外の識別子を用いても良い。また、同一機種のみでクライアントが構成される場合は、ユーザ識別子だけを用いても良い。さらに、ユーザ識別子に替えて、OSの種類を示すOS識別子を用いることによってリモートブートするOSの選択をすることも可能であり、環境設定ファイルの種類を示す環境識別子を用いることによって、リモートブート時に利用する環境設定ファイルを選択することも出来る。もちろん、各識別子を組み合わせて使用することも可能である。

【0039】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、リモートブートによって立ち上げるOSの種類、環境をユーザ毎に設定でき、1台の情報処理装置を複数のユーザで交代に使う場合にも各ユーザに最適な環境を提供出来るという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例におけるLANボードBIOSの初期化プログラムの実行内容を示すフローチャートである。

【図2】本発明の一実施例におけるクライアントの立ち上げ動作を示すフローチャートである。

【図3】本発明の一実施例におけるFD BIOSエミュレータプログラムの動作を示すフローチャートである。

【図4】本発明の一実施例におけるクライアントの構成図である。

【図5】従来例および本発明の一実施例におけるシステム全体の構成を示す図である。

【図6】本発明の一実施例におけるクライアントのメモリマップを示す図である。

【図7】本発明の一実施例におけるクライアントの割込みベクタを示す図である。

【図8】従来のリモートブートにおけるサーバのHD上のリモートブート用OSファイル構成を示す図である。

【図9】

ルの内容を示す図である。

【図10】本発明の一実施例におけるサーバのHD上のリモートブート用OSファイル構成を示す図である。

【図11】本発明の一実施例における対応付けファイルの内容を示す図である。

【符号の説明】

- 1 … サーバ、
- 2・3・4・5 … クライアント、
- 6 … ネットワーク、
- 7 … HD、
- 8 … ファイル、
- 9 … LANボード、
- 41 … CPU、
- 42 … 主記憶、
- 43 … ROM、
- 44 … キーボードコントローラ、
- 45 … キーボード、
- 46 … HDコントローラ、
- 47 … HD、
- 48 … FDコントローラ、
- 49 … FDD、
- 50 … 表示コントローラ、
- 51 … ディスプレイ、
- 52 … LANコントローラ、
- 53 … LANボードBIOS ROM、
- 54 … MACアドレスROM、
- 61 … システムプログラム、
- 62 … FD BIOSプログラム、
- 63 … 表示BIOSプログラム、
- 64 … LANボードBIOSプログラム、
- 65 … 割込みベクタテーブル、
- 66 … 初期診断プログラム、
- 67 … 周辺装置用ROM BIOSプログラム、
- 68 … ブートプログラム、
- 69 … 初期化プログラム、
- 70 … FD BIOSエミュレータプログラム、
- 81・82・101・102・103・104 … リモートブート用OSファイル格納ディレクトリ、
- 83・105 … 対応付けファイルの内容。

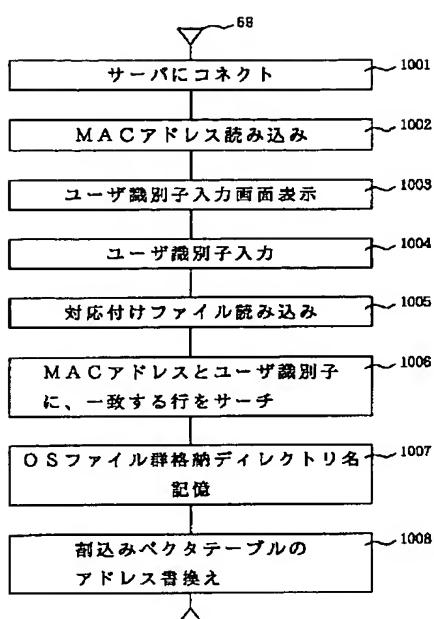
【図9】

図8

5 A 0 0 3 B 7 7 = X T Y P E
4 B 8 3 1 2 1 1 = X T Y P E
2 C 8 8 4 A 6 7 = Y T Y P E
7 5 6 8 2 7 3 2 = Y T Y P E

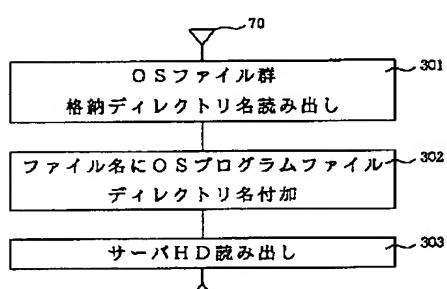
【図1】

図1



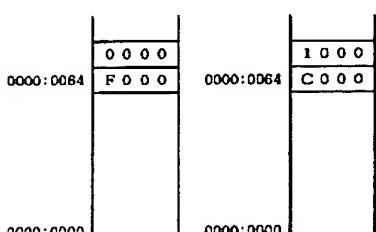
【図3】

図3



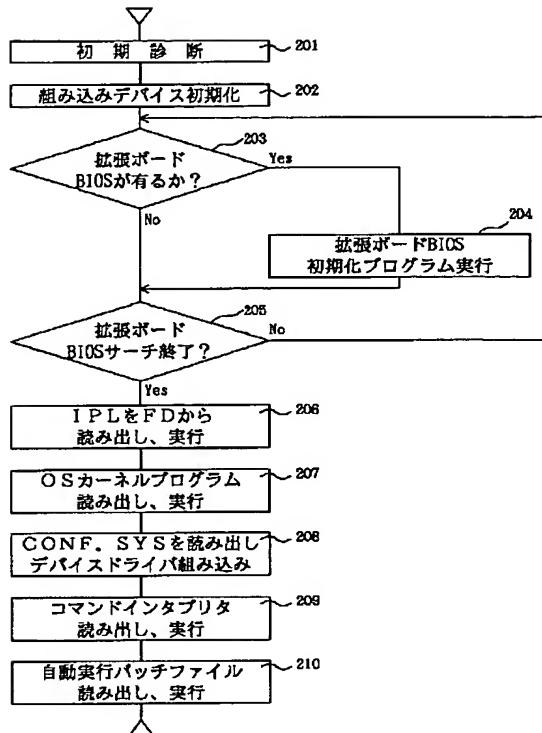
【図7】

図7



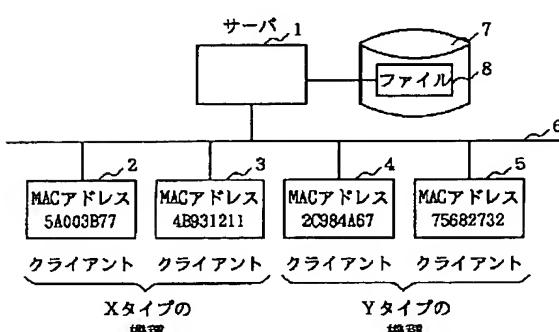
【図2】

図2



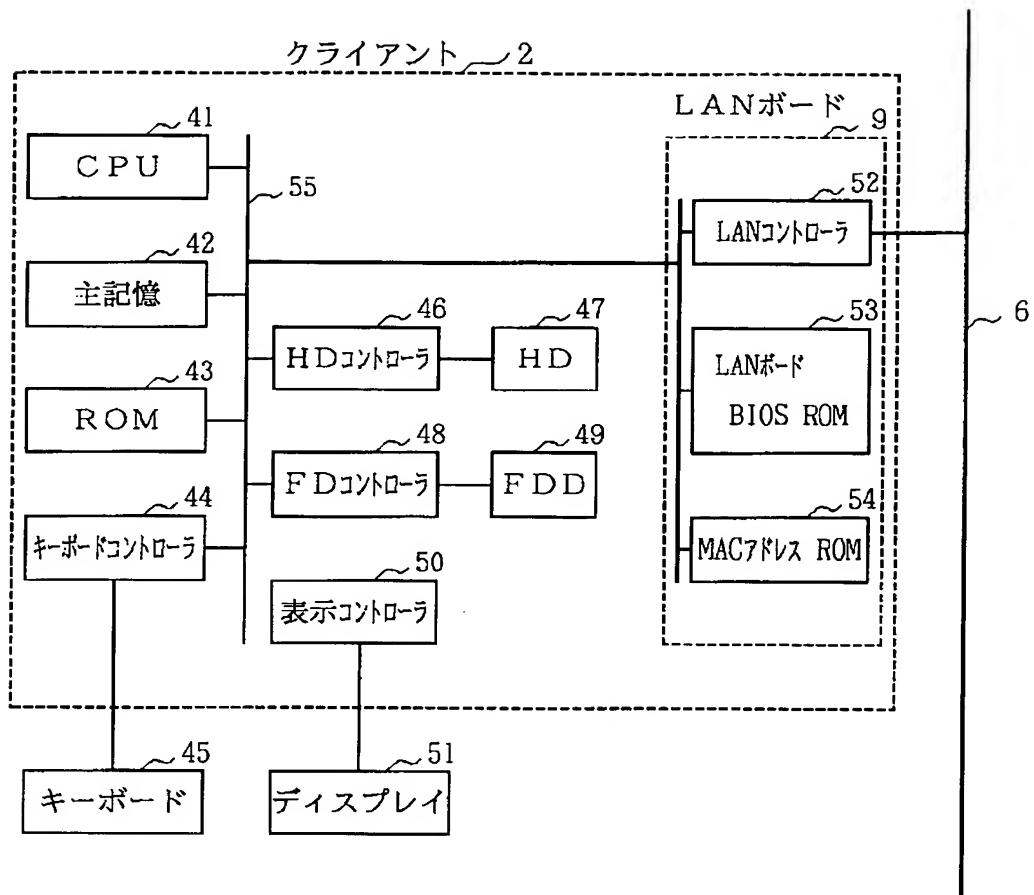
【図5】

図5



【図4】

図4

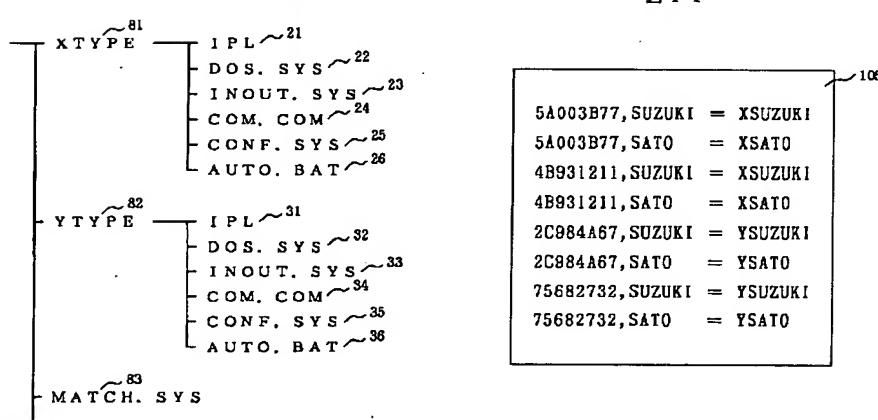


【図8】

【図11】

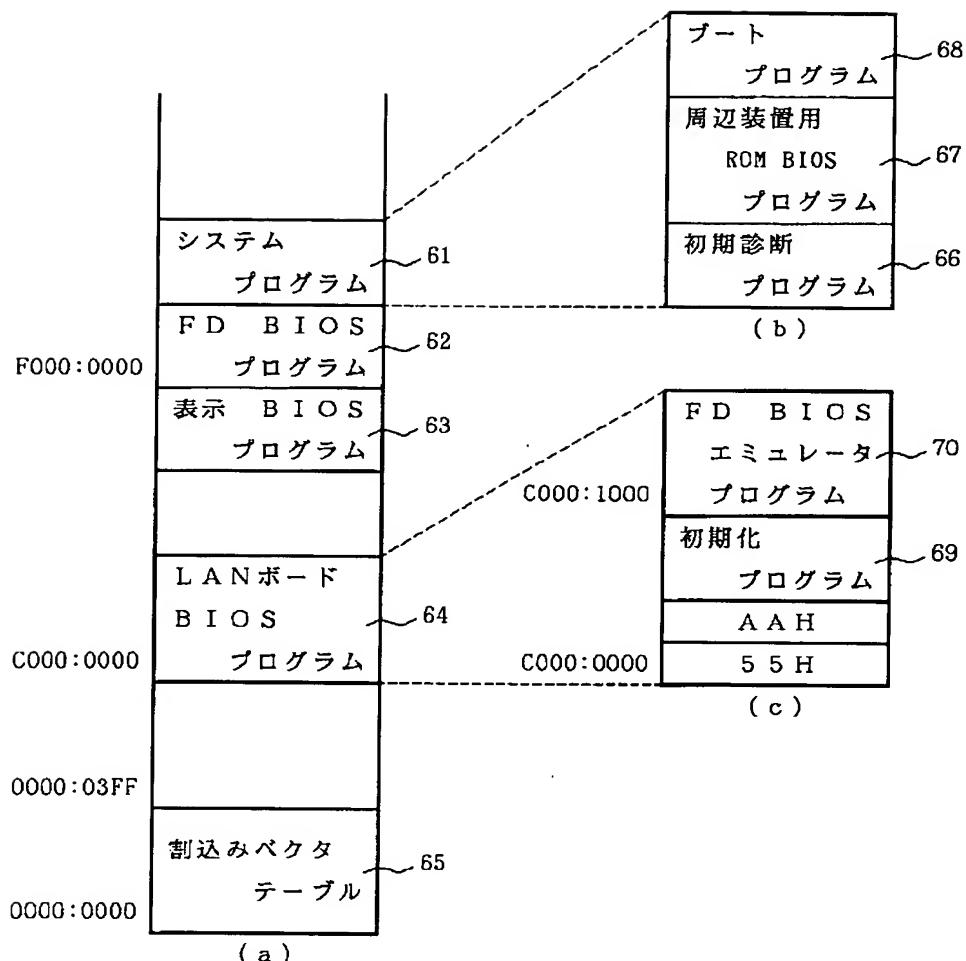
図8

図11



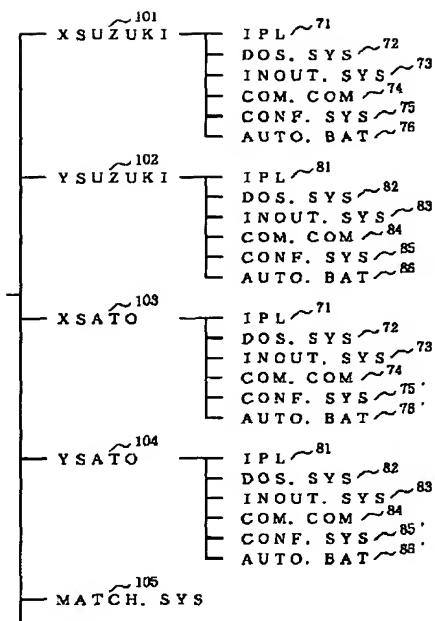
【図6】

図6



【図10】

図10



フロントページの続き

(72)発明者 中根 啓一

神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地株式
会社日立製作所マイクロエレクトロニクス
機器開発研究所内